CG アニメ版「聖十字架物語」

CG Animation "Tale of the Holy Cross"

テキスト：宮下 孝晴*, アニメーション：ほんだ しょうこ**

Text: Takaharu, MIYASHITA* Animation: Syoko, HONDA**

要旨:

CG アニメ版「聖十字架物語」は、サンタ・クローチェ教会大礼拝堂に描かれた壁画（アーニョロ・ガッディ作 14 世紀末）の壮大なストーリーを《読んで楽しむ》という立場に徹して制作したものである。この物語は 13 世紀のジェノヴァ大司教ヤコブス・デ・ウォラギネによって著された『黄金伝説』に収められており、それをもとにナレーションテキストを作成。新たなモチーフはいっさい加えず、木々の緑や背景の青などの補彩も最小限にとどめ、壁画に描かれている登場人物たちだけを動かしてアニメーション化した。本稿はそのテキストとアニメーション映像の抜粋である。

キーワード： CG アニメーション,「聖十字架物語」

Abstract:

The CG animation "Tale of the Holy Cross" was produced in the position of reading and enjoying the grand story of the mural painting by Agnolo Gaddi in the end of 14th century where is on the wall of the Chiesa di Santa Croce large chapel. The narration text was created based on the story in the "Legend aurea" written by Genoa archbishop Jacobus de Voragine in the 13th century. The animation was made without new motif, and with minimum compensation for the color such as green of trees and blue of a background, and motion of only characters currently drawn on the mural painting. This paper is an extract of the text and CG animation.

Keywords: CG animation, Tale of the Holy Cross

14 世紀末にアーニョロ・ガッディが描いた壁画連作「聖十字架物語」は、キリストが磔刑に処せられた十字架の木が主役の伝説を、「アダムの死」から、7 世紀の東ローマ皇帝ヘラクリウスの時代まで 8 つの画面に描いている。CG アニメ版ではこの物語を貫く「原罪と救済」の思想を明快にするために「旧約聖書」にさかのぼって「アダムとイヴの楽園追放」をプロローグとして補い、この壁画を修復するに至った経緯をイントロダクションで紹介した。

1．イントロダクション

ルネサンス文化が花開いた街、フィレンツェ。ヴェッキオ宮殿、花の聖母マリア大聖堂、アルノ川に架かるヴェッキオ橋、そして、今回舞台となるサンタ・クローチェ教会。ここには、ガリレオ・ガリレイやミケランジェロのお墓があります。その主祭壇奥の大礼拝堂に描かれた、アーニョロ・ガッディの壁画「聖十字架物語」が、美術愛好家の寄付金を受けて、金沢大学、フィレンツェ修復研究所、サンタ・クローチェ教会の 3 者によって修復されることが、2004 年 6 月に合意されました。それから 6 年もの間、丹念な修復作業が続けられ、2010 年 12 月に終了しました。

2．「聖なる十字架の物語」

(1)プロローグ

このお話は神様がこの世界をお造りになった頃の、遠い遠い昔にさかのぼります。光と闇を分け、海と陸を分けた神様は、海にはたくさんの魚たち、陸にはいろいろな動植物をお造りになりました。最後に、ご自分の姿に似せて 1 人の人間をお造りになって、東のエデンという楽園に住まわせましたが、寂しそうな人間をみて、やがて、もう 1 人の人間をお造りになりました。初めの人間である男はアダム、次に作られた女はイヴと名づけられました。

エデンは、暑さや寒さ、病気や飢えに苦しむこともありませんでしたが、神様と人間の間には 1 つの約束がありました。それはエデンの奥に生えている 1 本の「善悪を知る木」の実だけは食べてはいけないというもので、もし約束を破って、その実を食べれば、罰として死が与えられることになっていました。

ある日、ずるがしこい蛇がイヴを誘惑しました。あの木の実を食べると、神のような知恵が授かるから、神様は禁じているので、決して死んだりはしないと騙したのです。

イヴは誘惑に負けて実を食べ、アダムにも食べさせました。こうして 2 人は神との約束を破り、エデンの楽園から追放されることになりました。アダムは生きるために額に汗して大地を耕し、イヴは苦しみながら子を産む、人間としての人生がここに始まったのです。

(2)第 1 画面「アダムの死」

それから長い時間が流れ、2 人は歳をとり、ついに罰として与えられた「死」を迎える時がアダムに訪れます。アダムの息子セツはエデンの楽園に行き、父の病を治すために「憐れみの木の油」を分けてくださいと大天使ミカエルに頼みました。が、大天使ミカエルはアダムが罪を犯す原因となった木の枝をセツに渡して、「この小枝が実をつければ、あなたの父は、健康なからだにもどるでしょう」と言いました。

* フレスコ壁画研究センター長 人間社会研究域 歴史言語文化学系教授

** (株)アトリエ ほんだしょうこ

しかし、セツが家に帰ってみると、父のアダムはすでに死んでいました。イヴや家族たちが悲しみに暮れるなか、セツは父の墓の上に小枝を植えました。

(3)第2画面「シバの女王の跪拝」と「木を埋めさせるソロモン王」

やがて小枝は成長し、ソロモン王の時代には緑の枝葉を茂らせた大木となっていました。ソロモン王は神殿の建設のために、その木を切らせたのですが、不思議なことに大工たちがどう切っても寸法が合わなかったので、近くの沼に架けて橋としました。

ユダヤ王国3代目のソロモン王の優れた知恵を噂に聞いたシバの女王が尋ねて来たときのこと、その橋に強い霊感を感じたシバの女王は、突然にその場に膝をついて丁寧に拝み始めました。お付きの者たちは何が起こったのかわからず、みな驚き、いぶかしげにその様子を見守るほかありませんでした。シバの女王は沼にかかった橋を見て、すぐに「世界の救世主がこの木につるされる」と直感し、そのことをソロモン王に伝えたのです。

ソロモン王はシバの女王の忠告を聞き入れ、さっそく家臣たちに命じて、橋となっていた木を沼から外させ、もう2度と地上に現れないように大地の底深く埋めさせました。

(4)第3画面「池から浮上する木」と「十字架づくり」

それから長い年月がたって、人々も木のことをすっかり忘れてしまった頃のこと、昔、木を埋めた場所の上に、神様のお供えとする生け贄を洗う池が掘られました。

すると、池から水がこんこんとわき上がってきて、どんな病にも効く奇跡の泉となり、病に苦しむ人々が噂を聞いて各地から集まってきました。

そしてある日、池の中から木が浮かび上がってきたのです。時代は今から2000年ほど前、ナザレの大工の息子イエスが人々に新しい教えを説いた頃のことです。

イエスが語る新しい教えは、理解されるどころか、かえって神を冒涜するものとして処刑されることになりました。その昔、シバの女王が予言したとおり、ちょうど池から浮かび上がった木で世界の救世主イエス・キリストの十字架が作られたのです。

ゴルゴタの丘の上で2人の盗賊とともに十字架に架けられたイエスは、しかし、3日後に復活しました。この奇跡によって、神はイエスの復活を信じる者たちに、死からの救済を与えようとしたのです。こうして、イエスの復活を信じるキリスト教徒にとって十字架は、アダムとイヴの子孫に罰として与えられた「死からの救済」を象徴する大切な存在となりました。

(5) 第4画面「十字架の発見と聖十字架の検証」

その後300年もの間、聖なるイエス・キリストの十字架は地中に埋まったまま、忘れ去られていましたが、ローマ皇帝となったコンスタンティヌスの母ヘレナが聖地を巡礼し、やっとの思いでそれを発見します。ところが、地中には3本の十字架が埋まっていて、どれがイエス・キリストの架かった聖なる十字架か、見分けがつきませんでした。

考えあぐねているときに、死者を運ぶ葬列が通りかかりました。死者の上に3本の十字架を順にかざしていくと、3番目の十字架で死者が蘇ったので、聖なる十字架が判明したのです。この奇跡を目の当たりにして心を打たれたヘレナは、その場でひざまずき、手を合わせて聖なる十字架に感謝を捧げました。

(6) 第5画面「十字架をエルサレムに持ち帰る聖女ヘレナ」

ヘレナはさっそく聖なる十字架をエルサレムの都に運びます。聖十字架の発見にわきたつエルサレムの人々は、城門の前にうやうやしくひざまずいて、ヘレナの一行と聖十字架を迎えました。

(7) 第6画面「略奪される十字架」

それからまた300年ほどの歳月が流れた7世紀初めのことです。異教徒であるペルシア軍がホスロー2世に率いられてエルサレムに攻め込んできました。彼らは略奪の限りを尽くし、ヘレナがエルサレムに残しておいた聖十字架の一部もこのときに持ち去られてしまいました。

(8) 第7画面「神のごとく振る舞うホスロー2世」、「天使のお告げ」、「皇帝ヘラクリウスの一騎打ち」

ホスロー2世は、聖なる十字架を自分の右側に飾り、左側には黒い雄鳥を置いて、いろいろな仕掛けをした神殿で神のごとく振る舞うことに夢中で、政治のことは息子に任せっきりでした。

その頃、東ローマ皇帝のヘラクリウスは、ペルシアを攻めるべく大軍を率いてドナウ川のほとりまで進撃してきました。不安で眠れぬ夜を過ごす皇帝の前に天使が現れ、「あなたは聖なる十字架で勝利を収めるでしょう」と告げたのでした。

神と聖十字架のご加護に身をゆだねた皇帝は、ペルシア王の息子と橋の上で激しい一騎討ちをし、辛くも勝利を収めます。

(9) 第8画面「ホスロー2世の斬首」と「皇帝ヘラクリウスのエルサレム凱旋」

ホスロー2世は、洗礼を受けてキリスト教徒となることを拒み、大勢の人々の前で斬首されました。しかし、皇帝ヘラクリウスは10歳になるもうひとりの息子に洗礼を受けさせ、みずから洗礼盤のそばから抱きあげて、父親の国をこの子に与えたのです。

こうして皇帝ヘラクリウスは聖十字架を取り戻し、再びエルサレムに持ち帰ります。ところが、皇帝がエルサレムの城門の前までやってくると、突然、門の石が崩れ落ち、壁のように積み重なって城門をふさいでしまったではありませんか。そのとき、天使が現れて皇帝に告げました。

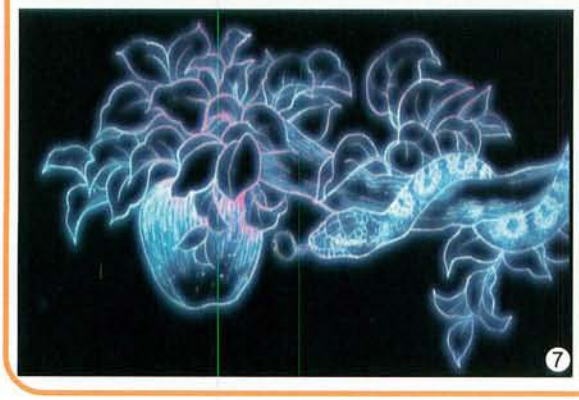
「かつて、イエス・キリストが自らの十字架を背負い、この門を通ってゴルゴタの丘に向かったとき、あなたのように豪華に飾り立てた馬に乗っていたでしょうか。きらびやかな衣装を身にまとっていたでしょうか。」

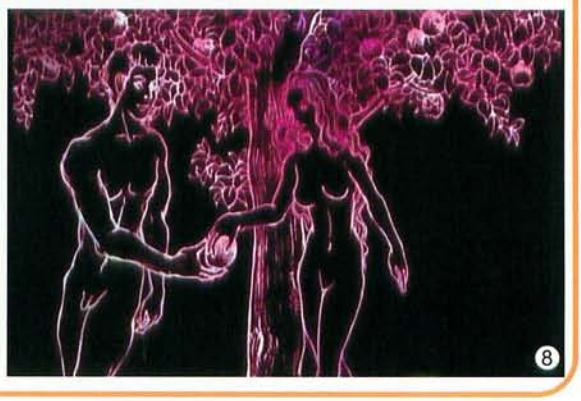
この天使の言葉を聞いた皇帝はすぐに愛馬から降り、豪華な靴と衣装を脱ぐと肌着1枚となって謙虚に十字架を掲げました。すると、どうでしょう。ふさがれていた城門は嘘のように開かれ、十字架を掲げた皇帝ヘラクリウスは人々の歓呼に包まれてエルサレムの都に迎え入れられたのです。

イントロダクション

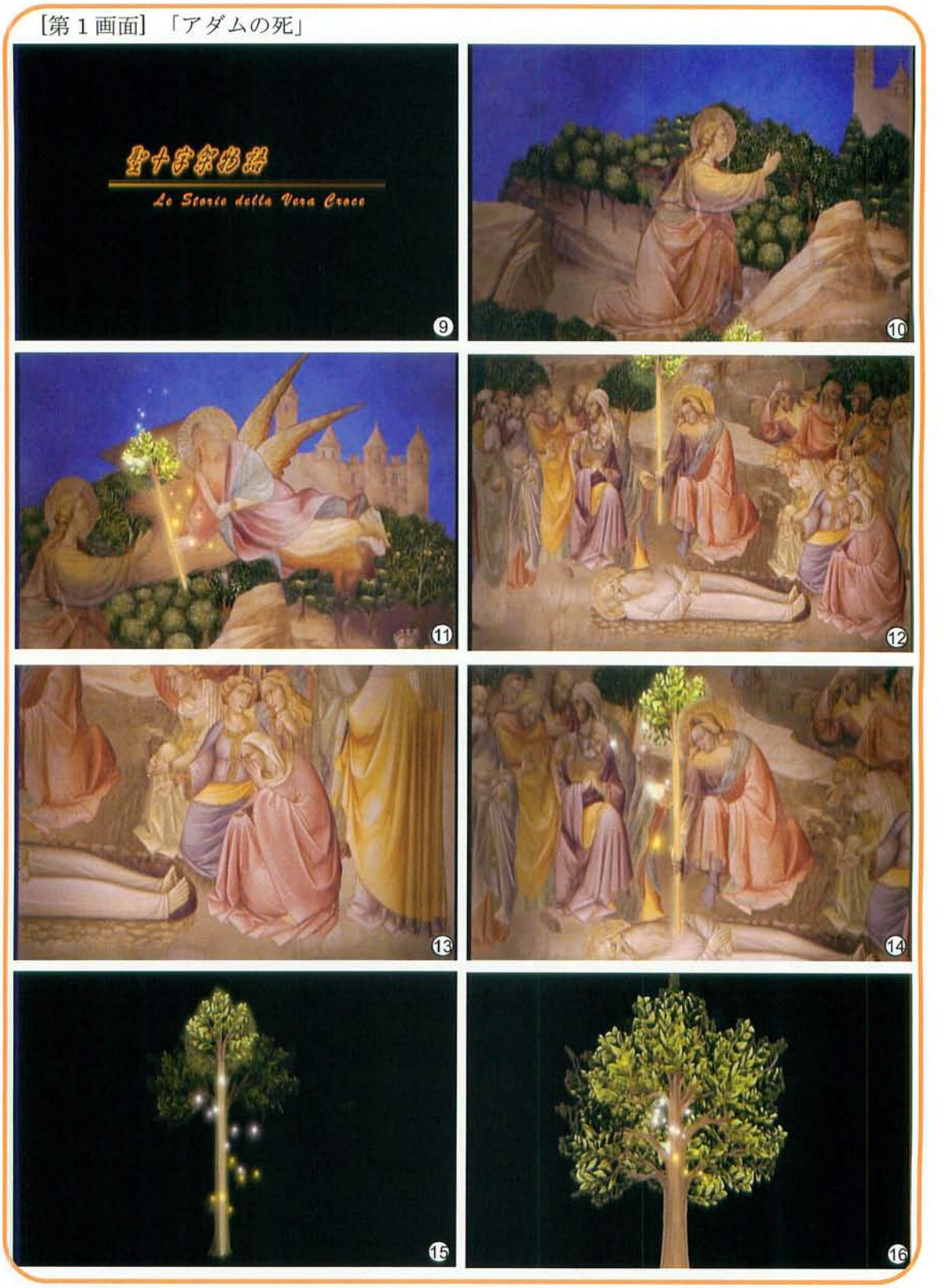
「聖なる十字架の物語」

プロローグ





[第１画面]「アダムの死」

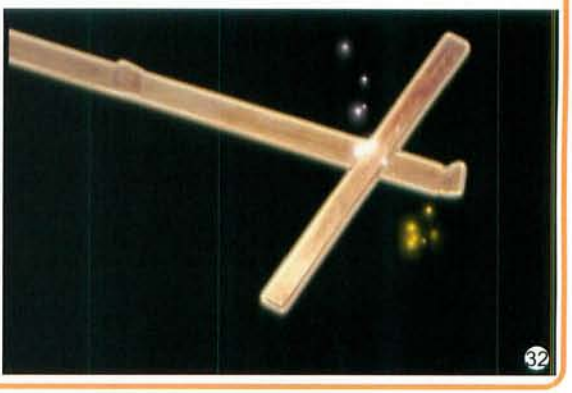


［第 2 画面］「シバの女王の跪拝」

「木を埋めさせるソロモン王」

[第 3 画面]「池から浮上する木」

「十字架づくり」



[第 4 画面]「十字架の発見」

「聖十字架の検証」

[第 5 画面]「十字架をエルサレムに持ち帰るヘレナ」

41

42

43

44

[第 6 画面]「略奪される十字架」

45

46

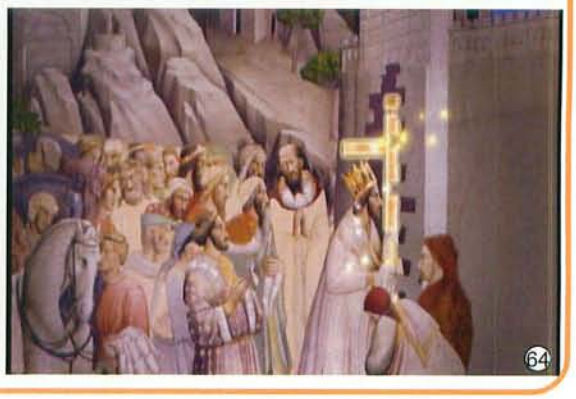
47

48

[第 7 画面]「神のごとく振る舞うホスロー2 世」

「天使のお告げ」

「皇帝ヘラクリウスの一騎打ち」

[第 8 画面]「ホスロー2 世の斬首」

「皇帝ヘラクリウスのエルサレム凱旋」